

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価基準	評価	
				項目	総合
<p>本校の教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する。</p>		<p>■公開授業の回数を増やして授業改善に努めたが、家庭学習時間数の増加にはつながっていない。生徒の学習意欲向上につながる授業改善を一層進める必要がある。</p> <p>■中堅私立大学の合格状況は改善したが、国公立大学及び難関私立大学については、やや厳しい結果であった。入学時から学習習慣の定着の指導に力を入れ、学力向上を図る必要がある。就職は100%の内定を得ることができた。</p> <p>■「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」の関連性を高めた取組を「総合的な学習の時間」を使って実施することができた。環境委員による環境保全活動の取組と教職員によるKES認証の更新をともに継続することができた。</p> <p>■広報は、ツイッターやホームページ、毎月のお知らせマガジンの発行により積極的に展開できた。しかしながら、生徒募集が厳しい現状を踏まえ、より魅力をアピールする方策を進める必要がある。</p> <p>■部活動指導は、日々の指導に加え、部集を定期的に開いて人間性と社会性の育成、目標に向け努力する気持ちを大事にする指導に努めた。</p> <p>■京都府自転車安全利用推進員は取組3年で900人を超える生徒が受講し、京都府より「自転車安全利用取組優良モデル校」の認定を受け、鍵1グランプリにおいて第1位の表彰を受けることができたが、自転車の安全運転については継続してさら注意喚起を図る必要がある。</p>	<p>【目標】 希望進路が実現できるよう学力を向上させる。特別活動と部活動の充実を図ることで自主性と社会性、規範意識を養う。コミュニティースクールとしてこれまで以上に地域から愛され信頼される学校づくりを行い、3つの教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を充実させる。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)新学習指導要領の改訂ポイントを踏まえ、各教科で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究と実践を行う。 (2)教員相互の授業参観を行うことで資質能力の向上を図るとともに生徒の学力向上につなげる。 (3)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。</p> <p>2 進路指導と生徒指導 (1)希望進路の実現に向け、一人ひとりに応じたキャリア教育を推進する。 (2)北稜祭等の活動を通して生徒の自主性を養う。 (3)挨拶や身だしなみ、言葉遣い、スマートフォン使用ルールの指導に力を入れ規範意識を醸成する。</p> <p>3 部活動指導 (1)学習と部活動を両立させる指導に力を入れる。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。</p> <p>4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が保護者や地域によりよく分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。</p> <p>5 地域との連携 (1)学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティースクールとして地域の信頼を一層得るための努力を続ける。 (2)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p>		
教育課程 学習指導	本校の経営方針に基づいた教育課程を検証する	「学校経営計画」「学校経営の方針」を踏まえ、平成31年度入学生教育課程を検証しながら、来るべき指導要領改正(令和4年4月)を見据えたコース編成・教育課程の研究・提案を行う。	教科主任会議、研修会を通して本校の直面する現状を周知し、教育課程やコース編成について改革の機運を学校全体に広げることができたか。	B	昨年度から継続して教科主任会議や活性化検討会議を通じて本校の在り方やセールスポイントについて協議を重ね、令和2年度入学生の教育課程を編成した。11月の職員会議で新コースとその教育課程について変更の意向を説明し、全職員で共有することができた。また、新学習指導要領の具体的な情報も今年度になって通知がなく、それを見据えたような教育課程については協議・研究はできなかった。
	授業参観・公開授業・研究授業を計画・実施し、授業を客観的に見直す機会とするとともに、年2回に授業評価を実施して授業改善につなげる。	授業参観・公開授業・研究授業を計画・実施し、授業を客観的に見直す機会とするとともに、年2回に授業評価を実施して授業改善につなげる。	授業参観・公開授業・研究授業を実施し、多くの保護者・関係者・教員が参加した。その後、教科会議等を利用した合評会を行い授業改善につなげられたか。	B	5月14日に中学校関係者および保護者対象の授業参観を行った。例年と比べて1年生の保護者の参観数が増加した。公開授業については6月10日～14日の日程で行い、研究授業については11月5日から3週間で行い、教室内はもちろん教科を越えての授業改善や新学習指導要領に対応した新たな教授法の研究を行う機会となった。今後はさらに活発な交流や研究ができるよう目指して、各教科で公開授業・研究授業のあり方、実施の仕方を検討しているところである。
	よりよい学習環境を維持するよう、教科担当と担任が密にコミュニケーションをとりながら組織的に指導を行えるように、シラバスの改善や研修を通して個々の教員が持つ知識や経験を共有できる環境を整備する。	よりよい学習環境を維持するよう、教科担当と担任が密にコミュニケーションをとりながら組織的に指導を行えるように、シラバスの改善や研修を通して個々の教員が持つ知識や経験を共有できる環境を整備する。	授業態度等調査及び欠課過多生徒の報告が教科担当と担任をつなぐ資料として機能し指導に活用できたか。	B	今年度、評価アンケートの結果が授業改善の資料として有効に機能したか。
	学力向上に向けての授業改善と基礎学力充実を図る	学力向上に向けての授業改善と基礎学力充実を図る	シラバスが教科指導のツールとして機能し、生徒の計画的な学習習慣の定着や評価に対する意識を喚起できたか。	B	各考査前に実施することで、平常の授業態度と成績の相関やクラスの様子を、担任と教科担当が知り、連携を図る資料として機能していると思われる。しかし、毎回のようにならぬままに生徒が存在し、改善につなげていないケースも見られる。今後、指導方法について本調査を踏まえて検討する必要があると思われる。
			課題となる事項に対して、適切な時期・テーマで研修会を実施することができたか。	C	前年度より新形式のシラバスを作成しており、今年度は1・2年生で新形式となった。来年度は全学年で同様の形式によるシラバスを作成する予定である。新形式のシラバスにはすべて基本ルーブリックを添付し、学習の到達レベルや評価が生徒自身で把握しやすいものになることができた。しかし、実際、すべての生徒が評価に対する意識を高め、それらを手早く活用できているかは把握できていない。
国際交流に関する取り組みを充実させる	マレーシア研修旅行での研修内容をより充実させる。	マレーシア研修旅行での研修内容をより充実させる。	各教科で事前学習に取り組むことができたか。事前学習の内容を実際の行程に即したものにできたか。	B	今年度は教務部としての研修会を実施できなかった。教務部長会の教育課程専門部に所属し、他校の教務部長と研究協議したが、目標としていた新学習指導要領に関する教育課程の研修会が実施できるほどの情報の収集がなかった。今後、令和4年度に向けて、具体的な学習内容やその評価の仕方の通知がされるはずであるので、確かな情報が得られればそれらについての研修会を実施したいと考えている。
	マレーシアデーを始め海外から来校する学生との交流を積極的に進める。	マレーシアデーを始め海外から来校する学生との交流を積極的に進める。	できるだけ多くの生徒が交流行事に参加できたか。内容に環境や地域連携などを取り入れられたか。	A	1学期はタイ、マレーシアと交流し、マレーシアデーでは本校生徒約150名が、マレーシアの生徒約40名と交流した。2学期は、Active Englishの授業と連携し、京都産業大学の留学生や、電電を利用したおもてなしツアーでタイの生徒と交流した。ロシアとの交流では例年のプログラムに加え、茶道のおもてなしをすることもでき、多くの生徒が交流に参加する機会を持った。今後はさらに環境教育や地域との連携した形を模索していきたい。
	環境教育に生徒が主体的に取り組める内容にする	環境委員を中心に環境保護活動に生徒が主体的に取り組むように指導する。	環境委員が率先して調査や啓発活動に取り組めたか。	B	KES Dayより最終式での取り組み報告、北稜祭の展示を中心として全校生徒に啓発活動を行った。最終式での報告内容や北稜祭での展示内容は生徒の発表を取り入れることができた。
	広報活動を充実させる	学校説明会を通して、学校全体として学力向上に取り組んでいることを紹介する。	学校説明会の生徒発表で、日常の学習習慣の大切さや学びの面白さを伝えるよう工夫できたか。	B	国際交流、環境保護活動、北稜フェスティバル、部活動で活躍している生徒の発表を通して学習習慣の大切さや学びの面白さを伝えることができた。今年度は学校説明会で卒業生にも北稜高校の魅力を紹介してもらったことができた。
		学校公式ホームページ、Twitterを活用し、迅速な情報発信を行う。	北稜高校の魅力ホームページやTwitterで迅速に発信できたか。	A	ホームページやTwitterを通して北稜高校の魅力や学校生活を発信できた。特にTwitterでは迅速に写真を多く使用して北稜高校の魅力や学校生活の様子を発信できた。
安心・安全な学校作りをする	教職員による年間7回の交通安全指導を実施する。また部活動員で構成された自転車安全利用推進員による自転車通学指導を年20回以上行う。1年生に対する早期の交通安全学習・ネットモラル指導をする。貴重品の自己管理を徹底させる。いじめを許さない体制を確立する。	教職員による年間7回の交通安全指導を実施する。また部活動員で構成された自転車安全利用推進員による自転車通学指導を年20回以上行う。1年生に対する早期の交通安全学習・ネットモラル指導をする。貴重品の自己管理を徹底させる。いじめを許さない体制を確立する。	教職員による年7回の交通安全指導が実施できたか。部活動員による自転車通学指導を実施させられたか。1年生の交通安全学習が実施できたか。	A	教職員・部活動員による交通安全指導は計画的に実施できた。新入生向けの交通安全学習も計画通り実施できた。鍵1グランプリにおいて3連勝を達成し、自転車盗難への防犯意識を高められた。
	主体的活動の活性化を図る	生徒会活動・各委員会活動などの生徒の主体的な活動を指導し活性化させる。	生徒会・各委員会の年間の活動を高い意識で取り組ませることができたか。	B	1年生に対するネットモラル学習をネット安心アドバイザーにより実施した。貴重品管理については度重なる指導をしたが、2学期以降に放置されたカバンからの盗難事件が起きた。いじめ調査を年2回実施し、調査結果を教職員で共有して問題に対処できたか。いじめを許さない環境づくりができたか。
	社会性・規範意識を育成する	身だしなみ指導及び遅刻指導の徹底を図り、またスマートフォンの適切な使用ルールを身につけさせることで基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を促す。特に授業規律確保のためスマートフォンの始業～終業までの使用を制限するとともに校内では不必要な使用をさせないように指導する。	制服の正しい着用が定着したか。頭髪・装飾品等の指導を徹底して行うことができたか。朝の校門遅刻指導で遅刻生徒の状況が改善されたか。スマートフォンの始業～終業までの使用制限と校内での不必要な使用について指導を徹底することができたか。	B	生徒会は北稜祭で新しい企画を打ち出し、北稜祭を盛り上げた。また、生徒全体からアンケートを取り、学校への要望を提出するなど、主体的な活動に取り組んだ。各委員会は生徒総会で掲げた計画を実施できた。
	高大接続改革に対応する	各教科において学力の3要素を伸ばさせる授業を展開する。学びの過程をポートフォリオに記録させる。大学入学共通テストや英語の外部検定試験などの情報を収集する。	教科会議や職員会議で高大接続改革に関して研究をし、授業の実践ができたか。	A	新入生の部活動加入率は5月時点で85%以上、全体の定着率は90%以上となり、目標を達成したが、前年に引き続き1年女子の途中退部者の割合が高く、課題となっている。部集・キャプテン会議を計画的に実施し、北稜高校のリーダーとしての自覚を促すよう指導した。
		学年部と連携して、学習時間調査を定期的に行う。考査前だけでなく、平常時の家庭学習の習慣を定着させる。全学年に対して自習室の利用を促す。補習、土曜講座の出席率が80%を超えているか。学習会等の参加満足度が90%を超えたか。模擬試験の分析会を定期的に行うか。	平常時の自学自習時間が1・2年生で2時間、3年生は3時間行っているか。補習、土曜講座の出席率が80%を超えているか。学習会等の参加満足度が90%を超えたか。模擬試験の分析会を定期的に行うか。	C	「キャリア教育の観点」を取り入れた教育活動を日々行っているかどうか、教職員各自がセルフチェックを行う体制を整えている。進路学習は年間計画通り行っており、大学1・2年生で満足度90%、大学キャリアコンソーシアムで満足度84%であった。進路通信は6回発行した。大学受験は終了していないが、合格者数は国公立大学と関関同立で20名程度、産近甲龍で60名程度になる予測である。就職は順調である。
学校保健 安全 教育	健康実態の把握と生徒への援助	健康診断、保健室来室状況など各種情報をもとに、生徒の心身の健康状態を把握し、サポートする。	各種の情報を活用し、気になる生徒の心身の健康を早期にサポートできたか。	A	健康課題を有する生徒について、担任・保護者と連携しサポートが図れている。
	効果的な特別支援教育体制を確立する	特別支援の観点から支援が必要と思われる生徒の個別の指導計画を作成するとともに具体的な対応策を教員間で共有し、支援につなげる。コーディネーターと学年担当者によるケース会議の定例化を図り、より一層生徒の状況把握に努める。	個別の指導計画による情報の共有化を図り、具体的な支援につなげることができたか。	B	発達障害・学習障害について理解が進んできたが、個別の指導計画の充実や、具体的な支援にまではつなげていない。
	校内美化・安全点検の推進	美化・安全点検を定期的実施して、教育環境の整備・改善に努めるとともに、生徒の保健委員会・生活委員会共同でゴミの減量に取り組む。掃除用具の管理の徹底を図るとともに、大掃除の際に円滑に行えるよう掃除用具を整備する。	校内美化の推進とゴミの分別・減量に取り組むことができたか。	B	清掃用具ロッカーを設置し、各クラス毎用具を充実したことで、ワックスがけなどは定着し、美化を保つことが出来ているが、特にプラゴミの分別が不十分である。
	知的好奇心を引き出すことに努める	・生徒の興味・関心を広げるように多様な分野の資料を備え、ニュースの発行をはじめその他のさらなる働きかけを行い、利用の増加を図る。 ・各教科の授業の成果を展示することにより、生徒により身近な図書館をめざす。	生徒の一人あたりの貸出冊数や図書館を利用する生徒の割合を増やすことができたか。	B	定期的な図書館ニュース等の発行で、新刊案内を行った。生徒の来館の契機となるような企画展示や美術部・写真部・工芸科などの作品展示を行った。本年は1年生に図書館に興味をもってもらったため、移動図書館の取組も行った。
	探究学習の展開に寄与する	各教科の学習に必要な情報・資料の提供に努め、図書館と各教科の学習活動との一層の連携を図る。	授業での使用機会が増加したかどうか。特別な特集コーナーの設置が増加したかどうか。	B	授業で図書館を使用する際には担当教員と連携し、必要に応じて授業のテーマや課題に関連した資料を購入、展示し、生徒が求める情報にスムーズにアクセスできるようにした。
読書指導 視聴覚教育	生徒の自主活動を推進する	図書委員会活動をさらに推し進め、生徒が自ら主体的に取り組むことができるようになるため指導を充実させる。	図書委員が企画・運営に携わり活動内容を充実させることができたかどうか。	A	定期的な図書委員会や班活動を行い、移動図書館や委員会ニュースの発行、北稜祭での図書カフェや秋の図書館フェスティバルに取り組んだ。特に吹奏楽部とタイアップしたミニコンサートは多くの来場があり好評であった。
	教育環境整備	施設・設備の整備を推進し、教育環境の充実を図る。	教育環境の整備・充実が図れたか。	A	予算が厳しい状況ではあったが、計画的な整備・充実が図れた。
学校運営協議会による評価	・学習指導・生徒指導・進路指導・広報活動などそれぞれの領域においての取組は充実しており、一定の成果を出している。ただ、それが生徒募集につながっていないことが課題である。 ・生徒指導の充実とともに学校行事など学校生活が楽しくなるというところをアピールすることも大切である。 ・スマートフォン利用については、ICTの有効活用というプラスの側面と学習を阻害するというマイナスの側面を生徒にきちんと理解させたうえで指導する必要がある。				
次年度に向けた改善の方向性		・コミュニティースクールとして地域との連携を深めながら、在校生の学校生活の充実を図るとともに、外部への情報発信を工夫し、中学生から選ばれる学校を目指す。 ・保護者の意見を参考にしながら家庭学習時間を増加させる取組を行い、基礎学力の定着と進学に向けた学力の向上を図る。			